

2020年度事業報告

(一社) 若草プロジェクト

構成

1. 事業の概要	2
2. 事業の実施状況	4
① 「つなぐ事業」	
ア. LINE 相談	
イ. 若草ハウスの設置・運営	
ウ. まちなか保健室（新規事業）	
エ. 企業との連携	
オ. プラットホーム事業（新規事業）	
カ. 若草メディカルサポート基金	
② 「ひろめる」事業	10
ア. シンポジウム	
イ. 広報事業	
ウ. ツイッター等の活用	
③ 「まなぶ」事業	11
ア. 「女の子」たちの今を知り「信頼される大人になる」ための連続講座	
イ. Youtube 事業（新規事業）	
3. 総会・理事会の開催状況	11
4. 会員、賛助会員の状況	12

1 事業の概要

2020年度は新型コロナによる緊急事態宣言とともに始まり、年度を通して、新型コロナ禍にあって、少女や若年女性により過酷になる困難にどのように対処していくか、これが問われ続けた。

2020年4月、日本においては初めての緊急事態宣言で、感染防止のために広くステイホームが呼びかけられ、学校も職場も閉ざされ、もともと家庭が安全な居場所ではなかった少女たちは家庭内においてより過酷な現実を突きつけられ、これはライン相談に顕著に表れた。4月7日の緊急事態宣言を受けて、週2日のライン相談を全日受けることとし、相談件数は当然のごとく倍加したが、5月の相談の内訳に明らかになったことは、相談内容のうち家族問題が急増したことである。「家を出たい」「死にたい」の訴えが急増した。

しかし、緊急事態宣言下、彼女らを受け入れるところも限られ、ハウスも満室であり、かつ、コロナ感染のことを考えると、緊急一時保護としても多くの人を受け入れることは困難であった。この事態に、都内の至便な場所にある宿坊の提供を受けることができたことは、以降の関係作りにもとても有用であった。また、緊急一時保護の場所だけではなく、ステップハウスとして、少年（男子）のための更生準備ホームと提携し、中長期の居場所の提供を格安で受けることができた。ライン相談からあんな居場所の提供を具体的に実現できたのは、これらの提携無くしては到底困難であった。

ハウスでの生活も、コロナ禍にあって、特に大学生はすべての授業がオンラインとなり、ハウスに閉じ込められるようになり、心のバランスを失したり、また行動制限によるストレスによって入居者間の生活に軋轢が生じるようになった。ハウスでは、日中は各人が学校やアルバイトに行くことを想定しスタッフ不在となるが、コロナによって、ハウスに入居者だけがステイすることが多くなってしまい、安全面で不安を抱えることとなった。集団生活の場であるハウスにおいて感染症対策を十全にしつつ、かつ一人一人の入居者の心身の安定も図らなければならず、これからもまだまだ続くであろうコロナ禍にあって、これは大きな課題である。

まちなかに学校にあった保健室みたいな場所を若年女性の日中の居場所として設置できないかと、前年度から画策してきたが、2020年度は赤い羽根基金の助成を受け、4月から設置のできるようになった。しかし、場所は確保したもののコロナによる緊急事態宣言で開室が阻まれたかに思われたが、前述のライン相談からの面談相談の場所として、5月連休には正式オープン前ではあったが細々と受け入れ、宿坊から提携施設への連携の中継地点としての役割を果たした。緊急事態宣言が明けて7月には正式にオープンし、ふらりと通りすがりの子も気軽に立ち寄り、多くの人利用を得た。ここでの心理相談とアロマセラピーは毎週予定が埋まるようになり、さらにただおしゃべりしたいと寄る子も増えてきて、密になってきたため予約制にし、人数も限定せざるを得なくな

ったため、近くにより広い場所に移転することとした。

これらはコロナ禍における少女や若年女性に対する直接支援であったが、もう一つの柱である「支援の現場と企業や社会をつなぐ」活動については、これまで検討を重ねてきたプラットフォーム事業、若草メディカルサポート基金の2つの事業の試行を実施するなど新たなスタートの年となった。

プラットフォーム事業については、支援に関するマッチング機能を持った“TsunAが～る”の開発、試行により、支援を求める若年女性や支援施設・団体と支援を提供できる企業をつなぎ、相互にアクセスできるプラットフォーム構築の第1歩を踏み出した。

これらに加えて、ファーストリテイリングとの「若草×服のチカラ協働プロジェクト」ではグループの3事業でそれぞれに特色を活かした協働事業が行われた。各事業がもつ3ブランドがグループ内で初めて協働をしたことにより、国際女性デー特別企画へとつながった。さらに日本産業パートナーズ、日本生命等多くの企業との連携が進んでいる。

また、公的保険等で支弁できない医療費を支援する若草メディカルサポート基金は、6施設を対象にトライアルを行った。なお、支援のうち7割強はカウンセリングや精神科受診などメンタル面のケアに使われた。

「まなぶ」事業及び「ひろめる」事業については、対面での活動ができない中で、インターネットを活用した事業展開が進んだ。研修については、連続研修会を休止し、若草プロジェクトのメンバーやこれまでの研修会講師によるYoutube配信を「若草プロジェクトチャンネル」として開始した。またシンポジウムも中止とし、代わりにYoutubeによるオンライン報告会「コロナと少女～今見えてきたもの～」を開催した。

以上のごとく、2020年度を通して、若年女性らが必要としている課題にライン相談、若草ハウス、保健室等々、即時的に対応し、多くの女性らに支援を提供することができたが、今後は、それぞれの事業をより充実させ、そのためには、事務局体制の整備が喫緊の課題となっている。次年度の課題としてしっかり取り組んでいきたい。

2 事業の実施状況

① 「つなぐ事業」

ア.LINE相談

i 相談の仕組み

今年度は、直営運営になって、2年目を迎える直前に緊急事態宣言が発出され、在宅での対応を余儀なくされた。

緊急事態宣言期間中は、弁護士や福祉専門職・心理専門職等の監修者2名体制で毎日20時～22時まで相談に対応した。緊急事態宣言が明けても、監修者2名体制で毎週

水曜日は20時～22時、土曜日は18時～21時で対応した。8月になりコロナが落ち着いてきたことから、感染症予防を徹底したうえで、毎週土曜日18～21時の相談は学生を中心とした相談員3名+監修者2名という昨年よりも増員した体制で実施し、現在もその体制を維持している。

監修者は電話対応やメール相談への対応も行っている。LINEでのやりとりだけでなく、電話対応を求めてくる相談者も意外に多く、監修者が電話対応をしている間は相談員のフォローができないことから、監修者も2名必要とされている。

ii 相談実績

①対応件数	1451件
②メール相談件数	332件
③電話相談件数	19件
④出張面談件数	8件
⑤同行支援件数	8件
⑥保護件数	1件

LINEで相談を受けた結果、直接面談が必要と判断した場合には、都内近郊の場合には面談を行う。法律的観点からだけでなく、福祉的観点からも支援ができるように、原則、弁護士と福祉専門職の2名で面談することになっている。なお、遠方の場合には、地元の支援者などを紹介している。この場合、監修者が地元の支援者に連絡をして、相談者の心理的負担をできるだけ軽減するようにしている。直接面談した結果、必要と判断した場合には、同行支援を行っている。これまでには、児童相談所、医療機関等へ同行している。なお、今年は遠方からの相談も多く、その場合には、同行支援ではなく、本人の同意を得て、児童相談所などに通告などもしている。

イ. 若草ハウスの設置・運営

内閣府の『DV被害者等セーフティネット強化支援パイロット事業』の助成をえて、引き続き①生活支援の充実 ②退所後をみすえた支援の充実 ③退所後支援を進めた。課題は、日中スタッフが不在となるハウスの体制の問題と、ハウスを退所したあとの支援だった。とりわけコロナ禍において、通学できずすべてリモート授業になるなど日常が奪われていくなかで、より孤立を深めてしまうなど想定しなかった困難に直面した。スタッフが個別に自宅を訪問したり、通院同行、学校での面談の同席などな対応をした。

入所・支援実績

1 利用者総人数 23 人（前年度継続 4 人、短期再入所者 5 人、新規入所者 14 人）

うち 中長期入所者 10 人（退所者 7 人 次年度継続利用者 3 人）

短期入所者 13 人（退所者 13 人）

2 面談同行支援、退所者支援、就学学習支援、カウンセリング、スーパービジョン

(1) 社会性を獲得するための面談同行支援

・実施回数：196 回

・内訳：面談 124 回、医療 35 回、福祉 9 回、教育 6 回、民間 11 回、自治体 2 回、その他 8 回（親面接、施設同行）

・利用者人数：13 人

(2) 退所者支援

・実施回数：204 回

・内訳：面談 149 回、医療 12 回、民間 3、自治体 3 回、教育 2 回、福祉 2 回、警察 1 回、その他 32 回（施設見学、退去手伝い）

・利用者人数 21 人

(3) 就学学習支援

・実施回数：85 回

・利用者人数：11 人

(4) 被虐待トラウマ回復支援カウンセリング

・実施回数：34 回

・利用者人数：5 人

(5) スーパービジョンについて

・実施回数：4 回

ウ、まちなか保健室

赤い羽根福祉基金の助成を得て、コロナ禍で 7 月からの開室となったが、日中の居場所として多様なニーズがあった。近隣の予備校生、通学できなくなった学生、親からの虐待から逃れて来室、その後緊急一時保護を経て地域での自立まで、多様な対応をした。

めざしていた千代田区の事業とはならなかったが、1 年間の実績が評価され、東京都若年被害女性対策事業となった。

今後は開室時間の延長とともに、ヨガや英会話、洋裁やフラワーアレンジメントなども実施し、安全安心+エンパワメントできる居場所をめざしていく。

相談内容別件数	合計	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①心理相談	59	2	3	4	10	8	7	7	6	5	7
②易相談	4	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0
③アロマ	80	0	2	9	11	13	9	12	8	9	7
④からだの相談	5	0	0	0	1	1	0	0	0	2	1
⑤法律相談	7	0	1	5	0	1	0	0	0	0	0
⑥ゆっくりしにきた	190	1	6	11	19	19	17	35	27	24	31
⑦その他	5	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2
合計	350	3	12	30	43	42	34	54	41	43	48

年代別件数	合計	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10代前半	8	3	0	0	0	1	0	0	2	2	0
10代後半	141	0	8	15	19	26	14	14	14	11	20
20代前半	181	0	1	14	24	12	14	39	25	28	24
20代後半	20	0	3	1	0	3	6	1	0	2	4
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	350	3	12	30	43	42	34	54	41	43	48

来室した経緯	6月～2月	3月
LINE	57	10
Twitter	101	16
インターネット	8	
テレビ	3	
ハウス	21	1
ホームページ	13	8
寄り添いホットライン	7	
大谷先生	7	
通りすがり	21	3
友人の紹介	87	10
合計	325	48

複数回答あり

エ. 企業との連携

ファーストリテイリングとは2018年に連携協定を締結し、「若草×服のチカラ協働プロジェクト」という協働事業をスタート、「服のチカラを届ける」「服のチカラを体験する」という取組を実施している。基本的な「服のチカラをとどける」という取組では年2回（6月/9月）の肌着の寄贈（UNIQLO、Theory、ジーユーの製品）を行い、コロナ禍で更に厳しい状況にある少女や若い女性たちに支援を届けることが出来た。

リンク・セオリー・ジャパン（Theory）はグループ会社として、「服のチカラを体験する」というファッションイベント（6月/11月@東京）を協働で開催している。コロナ禍の折、2020年度のイベントは開催中止を余儀なくされが、その代替えとして、2200枚のサンプル品などの服をトップス、ボトムスなど3アイテムを1つのセットにした服の寄贈を行い、全国の支援施設・団体に支援を届けた。これまで、東京開催の為、このイベントを体験できなかった東京にアクセスが難しい少女や若い女性たちにコーディネート

ネットされた Theory (セオリー) の服が届き、喜ばれた。ファーストリテイリングは 2016 年、若草プロジェクトが設立以来、当団体が取り組む少女や若い女性たちの問題を国内の取り組むべき課題と考え協働で支援をとどけてきた。この協働事業で 2020 年度末までに 37000 点以上の衣料品、基本的な服のチカラの寄贈を頂き、全国の施設・団体に届けた。

若草プロジェクトは 2020 年 10 月 5 日より開始されたジューマイレージプログラム寄付のパートナー団体として参加した。「若草×服のチカラ協働プロジェクト」のこの新たな取組は、ジュー公式アプリを通じて、買い物や店頭での服のリサイクル参加で貯まるジューマイルを若草プロジェクトに寄付することで、困難な状況に置かれた少女や若い女性たちの「未来を応援する」という持続的な支援をかたちにしている。

ファーストリテイリングは 2020 年 3 月 8 日の国際女性デーに「若草×服のチカラ協働プロジェクト」の特別企画を実施した。新規事業であるプラットフォーム「TsunA が～る」(オ.プラットフォーム事業参照) を使った服の寄贈を行い、全国の施設や、この時期に開催される女性相談会などに支援を届けた。また、店舗でのファッションイベント (UNIQLO@東京、ジュー@大阪) を開催、婦人保護施設や自立援助ホームの若い女性や少女たち (各店舗 10 名) を招待した。Theory 以外の 2 ブランドが店舗において初のファッションイベントを開催したことにより「服のチカラを体験する」という取組の拡充がはかれた。

3 月 14 日には、UNIQLO 企画の国際女性デー記念スペシャルオンライントークショーを配信、NHK 報道局の福田和代氏と若草プロジェクト代表呼びかけ人の村木厚子がそれぞれの視点から、女性が直面している課題について実情と解決案やサポートなどについて話し合い、若草プロジェクトの取組についても広く広報を行った。「若草×服のチカラ協働プロジェクト」のさまざまな取組の拡充により、持続的協働の意義を体現することができた。

国際女性デーにおける他企業との連携として、日本ネスレ株式会社からは「国際女性デー」のシンボルである「ミモザ」のイラストと共に「On your side～あなたのそばに～」というメッセージが添えられた「若草×ネスレ」の特別パッケージのキットカット (5000 個) の寄贈をうけ、全国の婦人保護施設、自立援助ホーム、子どもシェルターなどに届けることが出来た。また、千代田区にあるまちなか保健室では地域の中学校、秋葉原でのアウトリーチ用としてこのキットカットを活用し、いきづらさを抱える若年女性のみならず、コロナ禍で困難に直面している人たち、その人たちを支援する人たちにも、応援する気持ちを届けることが出来た。

日本生命保険相互会社とは 2019 年度に包括協定を結び、協働事業を開始した。2019

年度には若草メディカルサポート基金に寄付を頂き、2020年度は活動全体への寄付（賛助会員費、活動報告書）、新規事業であるプラットフォーム運営費などの資金協力や企業のなかに若年女性の抱える問題の理解と支援を届ける応援団の輪を広げる活動、まちなか保健室のアウトリーチ用グッズの提供、プロボノ活動として事務局のステークホルダー管理業務の課題解決など、若草プロジェクトの取組に多岐にわたる形でかかわり、サポートを頂いている。

ハウス食品グループ株式会社は2019年に若草プロジェクトの取り組みに賛同いただき、協働で若年女性の「施設における食に関する課題」についてのアンケートを実施した。全国321の施設からの回答を分析し、災害用・備蓄用・緊急時への心配ごとが多いことがわかってきた。このアンケートの分析結果をもとに、常温でおいしいレトルトカレーを災害時の緊急防災用食品として「温めずに食べてもおいしい野菜カレー」300箱（1箱：3～4名/5日分）寄贈して頂き、全国の女性シェルター、婦人保護施設、子どもシェルターなどに配布した。緊急非常食は経済的に困窮している施設などでは整えることが難しく、今回の試みでは「緊急時に調理スペースの無い所でも提供できるので助かる」などの反響を頂いた。

企業の現場と支援者をつなぐ活動は広がっている。若草ハウスやまちなか保健室に生活に必要な日用品の寄贈を頂いている大王製紙株式会社は2021年度にむけて更に広い範囲での支援を検討して頂いている。タキヒヨー株式会社は定期的に服の寄付のお声がけを頂き、都内の施設・団体へ配布している。また社内で検討を重ね、衣類だけを届けるのではなく、社員も若年女性の問題について勉強し、彼女たちに寄添った支援を届ける為の理解を深め、課題を解決する力になりたいと考え、物品のみならず、ファッション関連の専門性のある体験的な教育やインターンシップなど、就労も視野に入れた可能性を検討する専任チームを立上げ、持続的な支援を行う準備をすすめている。石井造園、コーギーコーナー、その他の企業においても、少女や若い女性に支援を届ける応援団として、また彼女たちを支援する施設・団体の応援団として共に若年女性の問題を考え、課題を解決し、大きな応援団の一員として持続的な支援に向けた連携強化の準備を進めている。

オ. プラットフォーム事業（新規事業）

2020年4月より日本財団の助成金、日本産業パートナーズ株式会社、日本生命相互保険会社の資金協力により、支援に関するマッチング機能を持ったプラットフォーム「TsunAが〜る」を新設。支援を求める若年女性や支援施設・団体と支援を提供できる企業をつなぎ、相互にアクセスできるプラットフォーム構築の第1歩を踏み出した。第1段階として企業が提供できる「物品」をプラットフォーム上にのせ、eコマースのよ

うな形でそれを必要とする支援施設・団体につなぐシステムの構築・運用は以下のように行われた。12月にはプラットフォームの意図、機能等について広報を行い広く参加企業を求めた。また12月～1月にかけて3企業（ファーストリテイリング、ハウス食品グループ、大王製紙）にご協力頂き、試運転を実施。これによってプラットフォームの有効性が確認できたことを受け、ファーストリテイリングと連携した国際女性デー特別企画において、試行版のシステムによる運用を開始した。支援施設・団体に広く登録を呼びかけ120施設の支援施設・団体がユーザーとしての登録を完了した。2月25日には「サステナブル・ブランド国際会議 2021 横浜」にて代表呼びかけ人村木厚子が「困難を抱える若年女性に大きな応援団を」についてプレゼンを行い、多くの企業の参加を呼び掛けた。2020年度は現行の試行版による運用の結果に基づくシステムの改良を行うなど本格実施に向けた修正作業を行うこととしている。プラットフォームについては、将来的には企業のみならず、あらゆる関連機関が連携することで、物品、サービスにとどまらない技術、教育、住まい、医療、就労など、さまざまなものをプラットフォーム上にのせ、様々なかたちの支援を必要としている若年女性や支援施設・団体につなげる「社会のなかに大きな応援団をつくること」を目指している。

1) コンセプトの確定完了

2) システムの設計完了

3) 試行版のシステムを用いた運用と広報

2020年12月8日（月） プラットフォーム「TsunA が〜る」企業向け
説明会（リモート+会場参加）

2020年12月～2021年1月 試運転実施（3社連携／8施設参加）

2021年2月～2021年3月 試行版のシステムを用いた運用の実施
支援施設・団体によるユーザー登録
国際女性デーのイベントとして実施
(1社連携／107施設参加)

カ. 若草メディカルサポート基金

基金を活用した保険や公費では負担できない医療支出への支援について、トライアルとして、若年女性支援施設、子どもシェルター、自立援助ホーム、アフターケア相談所等の6施設の利用者に対して、4～10月の医療支出を支援することとし、5施設については上限の15万円、1施設は6千円の支出を支援することができた。

各施設からいただいた報告を基に分析すると、支出のうちカウンセリングや精神科の受診が73%、一般診療が16%、産婦人科受診が7%となっており、メンタルケアの重要性が浮き彫りとなった。なお、支出が上限に達しなかった1施設に状況を確認すると、「今回はたまたま少なかったが、通常は医療需要はもっと大きく、こうした支援があるのは大変ありがたい」という回答であった。

②「ひろめる」事業

ア. シンポジウム（オンライン報告会）

2020年度の若草プロジェクトシンポジウムは、新型コロナウイルスの蔓延防止の観点から中止とし、代わりにオンラインによる報告会を以下のように実施した。

若草プロジェクトオンライン報告会「コロナと少女～今見えてきたもの～」

日時 2020年10月10日（土）19時～21時

方法 Youtubeを通じたオンライン報告会（現在も視聴可能）

<https://www.youtube.com/watch?v=mtBFj9-MFQA&t=3780s>

<https://www.youtube.com/watch?v=pQt1848Y0r4&t=49s>

プログラム

ご挨拶 村木厚子（代表呼び掛け人）

第1部 コロナ危機下の若草プロジェクトの活動

- ① 概況
- ② LINE相談
- ③ 若草ハウス
- ④ まちなか保健室（新規）
- ⑤ 若草チャンネル（新規）
- ⑥ 若草×“服のチカラ”事業
- ⑦ 若草デジタルプラットフォーム事業（新規）
- ⑧ 若草メディカルサポート基金

第2部 呼びかけ人から見た「コロナと少女」

- ① 堂本暁子 前千葉県知事（インタビュアー：村木厚子）
- ② 浅倉むつ子 早稲田大学名誉教授（インタビュアー：大谷恭子）

代表呼び掛け人瀬戸内寂聴からのメッセージ

終わりに 大谷恭子（代表理事）

イ. 広報活動

HP や若草ニューズレターの発行等により広報を進めるとともに、ファーストリテイリングの国際女性デー記念スペシャルトークイベント、サステイナブルブランド会議2021 横浜などのイベントや講演活動等を通じて活動の周知を図った。また、NHK、産経新聞、東京新聞等の多くのマスコミで活動が取り上げられた。

ウ. ツイッター等の活用

ツイッター、フェイスブック等の SNS を通じて、若い女性や少女たちへの拡散を図った。

③「まなぶ」事業

ア. 「女の子」たちの今を知り「信頼される大人になる」ための連続講座

・第10回及び11回(時期、内容未定)だったが、コロナ禍のため開催できなかった。

ロ. Youtube 事業(新規事業)

少女や若年女性の支援に関わる支援者のインタビュー～を YouTube 内に配信する事業を開始した。

2020年8月より随時 YouTube 配信用の撮影を開始し、予定している配信動画の撮影を完了した。

2020年12月初旬より第一回の配信を行い、期末までに全23本の配信を完了した。

来期は撮影を終えている動画の配信とチャンネル登録を、賛助会員様含め多くの方への推進活動を行っていく。

3 総会・理事会の開催状況

i 機関

代表理事	大谷	恭子
理事	村木	太郎
理事	遠藤	智子
理事	瀬尾	まなほ
理事	牧田	史
理事	佐藤	加奈
理事	佐藤	静江
理事	福田	万祐子
監事	塩生	朋子

ii 総会

2020 年度会員総会 令和 2 年 5 月 29 日

議案 1 2019 年度事業報告

議案 2 2019 年度収支決算

iii 理事会

第 1 回定例理事会 令和 2 年 5 月 14 日

議案 1 2019 年度事業報告

議案 2 2019 年度収支決算

議案 3 2020 年会員総会開催

第 1 回臨時理事会 令和 3 年 1 月 6 日

議案 1 NPO 法人クレンジュ倒産に関する件

議案 2 保健室及び事務所移転に関する件

第 2 回定例理事会 令和 3 年 3 月 1 8 日

議案 1 2021 年度事業計画案

議案 2 2021 年度予算案

4. 会員、賛助会員の状況

正会員 8 名

賛助会員 175 名

合計 183 名

以上